

平成 28 年度 東北地方におけるプリオント病のサーベイランス状況

研究分担者：青木正志 東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座神経内科学
分野

研究協力者：加藤昌昭 総合南東北病院 神経内科

研究要旨

【目的】東北地方におけるプリオント病の疫学、症状を調査、解析する。

【方法】2016 年度（平成 28 年度）における東北地方在住で新規申請されたプリオント病疑い患者についてのサーベイランスを行った。プリオント病が否定的な症例については電話にて調査を行い、プリオント病が疑わしい症例に関して、宮城県の症例については実地調査を行い、その他の県の症例についてはその県の専門医に依頼し調査を行った。

【結果】プリオント病疑いとして調査依頼をうけた症例は、2015 年 11 月から 2016 年 10 月現在までの 1 年間で 20 例であった。内訳としては、青森県 3 例、秋田県 4 例、岩手県 3 例、宮城県 5 例、山形県 1 例、福島 4 例であった。遺伝子変異を伴う例、家族性のプリオント病の症例は 232Met/Arg 変異を伴う 1 例であった。本年度剖検数は 0 例であった。

【結語】東北地方におけるプリオント病のサーベイランス状況を報告した。今後も継続的に調査を行うことが必要であると考える。

A. 研究目的

東北地方におけるプリオント病の疫学、症状を調査、解析する。

し調査を行った。

（倫理面への記述）

患者個人情報取り扱いに関しては匿名化を行い、患者、家族にサーベイランスに協力いただくことに関して書面にて同意を取得した。

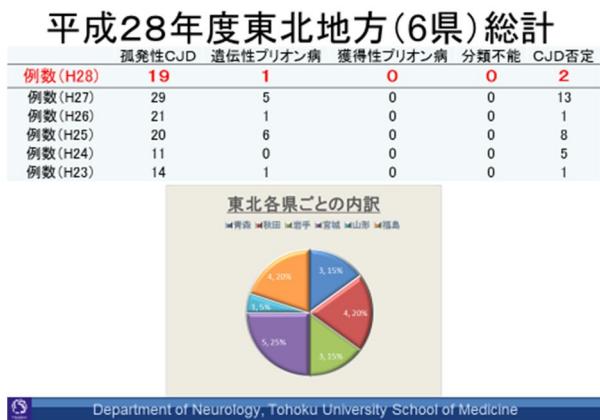
B. 研究方法

2015 年度（平成 27 年度）から 2016 年度（平成 28 年度）における東北地方在住で新規申請されたプリオント病疑い患者についてのサーベイランスを行った。プリオント病が否定的な症例については電話にて調査を行い、プリオント病が疑わしい症例に関して、宮城県の症例については実地調査を行い、その他の県の症例についてはその県の専門医に依頼

C. 研究結果

プリオント病疑いとして調査依頼をうけた症例は、2015 年 11 月から 2016 年 10 月現在までの 1 年間で 20 例であった。内訳としては、青森県 3 例、秋田県 4 例、岩手県 3 例、宮城県 5 例、山形県 1 例、福島 4 例

であった。遺伝子変異を伴う例、家族性のプリオント病の症例は232Met/Arg変異を伴う1例であった。本年度剖検数は0例であった。



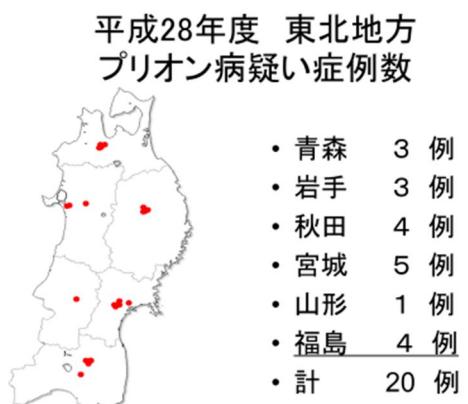
E. 結論

東北地方におけるプリオント病のサーベイランス状況を報告した。

プリオント病発症率は東北6県人口約1000万人とすると、年間発症率は約0.20人/10万人/年であり、概ねこれまでと同様の経過であった

地域性はあまりなく、ほぼまんべんなく発生していることがわかる。

今後も継続的に調査を行うことが必要であると考える。



F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし